



『冬の朝』
(朝日中学校)



変化する私たちの使命

ときわ会岩船・村上支部副支部長
村上第一中学校 鈴木 健史(平2年度)

「It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change. (最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き残るのでもない。唯一生き残るのは、変化する者である。)」進化論で有名な、チャールズ・ダーウィンが「種の起源」という著書の中で残した言葉だ。

私たちは予測困難な時代に生きている。想定外レベルの、地方から大都市への人口流出が止まらない。当然、地方は著しい人口減少に喘いでいる。ここまで急激な地方の人口減少を誰が予測できただろう。集落放棄や限界集落が全国各地で紹介されている。東日本大震災や能登半島地震等の被災地ではなおさらだ。

一方、世界に目を向けると、アメリカ社会や経済を第一とし、国際的問題等への関与を可能な限り控えるべきとする自国中心主義の考え方で、2017年に就任したドナルド・トランプ大統領が唱えたことで全世界に知れ渡った「アメリカ・ファースト」がある。日本国内では、東京都の小池百合子都知事が「都民ファースト」を掲げ、例えば「私立を含む全ての高校の授業料を2024年度から実質無償化する方針を示し、現行の都民対象の授業料助成に設けている所得制限(世帯年収910万円未満)を撤廃する」としている。

岩船郡・村上市はどうか?急速に少子高齢社会が進んでいる。村上市では、再び学校統合をせざるを得ない事態となった。おそらく進む道は「コンパクトシティ」だろう。人口減少をある程度受け入れつつ、あきらめずに次世代の地域づくりをする。目指すは、住民が誇りと自信をもって生き生きと生活する、魅力ある地域づくりだろう。

さあ、「教育」の出番だ。岩船郡・村上市で育つ子どもたちに、どこでも通用するしっかりとした学力と地域を盛り上げる人間力を身に付けさせて、堂々と社会に送り出さなければならない。それが変化する私たちの使命だ。